

塩竈市上下水道事業経営審議会 令和7年度第1回会議 議事録

1. 日 時 令和7年8月7日（木） 15:00～16:45
2. 場 所 塩竈市役所本庁舎2階会議室
3. 出席委員 大村達夫委員、佐野大輔委員（Web方式）、佐々木康弘委員、佐々木健志委員、内海安洋委員、東賢一委員、佐々木啓委員、鈴木将委員
4. 欠席委員 なし
5. 出席職員 鈴木上下水道部長、並木次長兼業務課長、熊谷上水道課長、佐藤下水道課長ほか担当係長（事務局）上下水道部業務課
6. 会議次第
 1. 開 会
 2. 委嘱状交付
 3. 挨拶
 4. 会長及び副会長の選出
 5. 議 事
 - (1) 令和6年度水道事業の取組について
 - (2) 令和6年度下水道事業の取組について
 - (3) その他
 6. その他
 7. 閉 会
7. 配布資料
 - ・塩竈市水道事業令和6年度の取組について
 - ・塩竈市下水道事業令和6年度の取組について
 - ・塩竈市上下水道事業経営審議会設置条例
8. 主な意見
 - 【水道事業】
 - ・現状、減少傾向にはあるものの純利益が出ており、健全な経営がなされているが、中長期的には厳しくなる見通しであり、対策が必要ではないか。
 - ・水需要の減により収入が減少する一方で、管路等施設更新需要は年々増加するという課題に対し、具体的な策を考えていかなければならない。
 - ・新たに、重要施設の耐震化に関する指標を設け、その進捗を管理していく必要がある。
 - 【下水道事業】
 - ・特別会計から企業会計に移行して間もないため、一般会計からの繰出金に依存する度合いが高い状況にある。

- ・近隣町でのウォーターＰＰＰ導入事例を踏まえつつ、宮城県の協力も得ながら、塩竈市の実情にあった対応を考えるべき。
- ・近年、下水道事業計画区域内であっても浄化槽処理に回帰する事例が出はじめている。将来的な施設規模最適化を考える上で、参考にできるのではないかな。

9. 議事録（要旨）

(1) 開会

事務局から塩竈市上下水道事業経営審議会設置条例第6条第2項に規定する会議の成立要件を満たしていることを報告した。（委員8名中8名出席）

(2) 委嘱状交付

千葉副市長から各委員へ委嘱状の交付を行った。

(3) 挨拶

千葉副市長から挨拶を行った。

（要旨）

- ・佐藤市長が東京出張のため帰庁が遅れており、代理で委嘱状の交付とご挨拶をさせていただきました。
- ・上下水道事業に関する審議会を今年度初めて設置した。
- ・安全で安心な水が飲めるのは日本だけである。安全で安心な水を届けること、適切な雨水・汚水の排水処理を通じて地域環境を守り続けることは、重要な責務である。
- ・給水人口の減少や施設の老朽化、耐震化への対応など、上下水道取り巻く状況は、ますます厳しさを増しており、経営基盤の強化や将来を見据えた施設更新計画など、解決すべき課題が山積している。
- ・現状を踏まえた効率的な事業運営など、今後のあるべき姿について、専門的な知見と多角的な視点から、貴重なご意見やご提案をお願いしたい。

(4) 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に大村達夫委員、副会長に佐野大輔委員が選出され、満場で承認された。

○大村会長（就任あいさつ）

こんにちは。皆様方からこの経営審議会の会長に指名して頂き身が引き締まる思いでおります。先ほど塩竈市の千葉副市長さんからご指摘がありましたように、今我々の命の水は水道水ですね。また、水環境の保全是我々にとって非常に重要なテーマであります。これらに関わる大事な上下水道事業について、きちっとした経営をし、安心安全で、そして健全な状態で継続していく。それが今後ますます重要なテーマになっていきます。そのテーマを色々と議論していく場として今回の経営審議会がその義

務を担っていく事になります。今日まで塩竈市の方々が色々な計画を作って上下水道はきちっと守られてきていますが、これからの上下水道の未来がなかなか見えてこない。その困難なところを経営審議会の場合において、どちらかと言うと行政サイドだけの議論になりがちですが、委員に就任して頂いた上下水道の関係者の方や県の方、事業者の方と共に、技術的な側面からだけでなく、経営、金融の面からも幅広く議論していかないと持続可能な上下水道に繋がっていかないと考えています。ちょうど国も上下水一体という形でこれから行政を行っていくところなので、非常に良いタイミングで、この経営審議会を立ち上げて頂いたと考えております。この経営審議会を実りあるものするためには、委員の方々のご協力ご意見等を賜ることが非常に大事だと思っておりますので、今後とも経営審議会でも色んな発言を頂いてサポートして頂ければと思いますのでよろしくお願い致します。

○佐野副会長（就任あいさつ）

東北大学の佐野でございます。本日オンラインで大変申し訳ございません。よろしくお願い致します。今、大村会長からもお話ありましたけれども、この審議会での議論が20年後30年後の塩竈市民の皆様の快適な生活と産業の持続的な発展に直結するものと認識しておりますので、その円滑な審議等と会長をサポートして貢献したいと思っております。お世話になりますけれども、よろしくお願い致します。

(5) 議事

塩竈市上下水道事業経営審議会設置条例第6条第1項の規定により大村会長が議長となり、議事が進められた。

○大村会長

それでは本日の議題に従って議論を進めて行きたいと思えます。皆様のご協力をお願い致します。初めに議題の1、令和6年度水道事業の取組について事務局から説明をお願いします。

○並木次長兼業務課長

（資料「塩竈市水道事業令和6年度の取組について」に基づき説明。）

○大村会長

ありがとうございました。盛りだくさんの内容で、委員の方々に全部をご理解いただけたか難しいかもしれません。今の水道経営状況で、純利益が6,000万という事で減ってはいるけれども減価償却がありますので、少なくとも利益が出ているという事は健全な経営がなされている。これがいつまで続くか分からないので、今後利益率をアップできるような経営体制を作っていく事が大事だと思いました。委員の方々、ご意見等がありましたら、積極的にご発言頂ければと思います。例えば水産業では、震

災以降の落ち込みなどで水需要がだいぶ減っていると思いますが、市場の関係で委員になって頂いている東委員、水需要についてご意見があれば賜りたいと思います。

○東委員

仲卸市場の方に店を出している東と申します。仲卸は今年で創立60周年になりますが、60年前は全部で店舗が376店舗ありました。今は70店舗を切っています。子供の頃の記憶では、お客さんがひっきりなしに入って、物の売れ方もかなり違いました。今は、スーパーさんにお客さんが流れて売り上げ的に減っているので水産業での水の需要は減っているのではないかと思います。仲卸の周りの加工団地についても、企業減少とともに水の需要が減っていると思います。

○大村会長

塩竈市は、水産業が一番メインの産業だと思いますので、今後、事業が発展して水需要が増えれば良いという気はします。実際に製品を加工されている内海委員はどうですか。

○内海委員

確かに以前に比べて加工する会社も減っていますし、うちの会社自体も売り上げが少し減っていて、魚のすり身に加水する水の量も年々減っていると思います。

○大村会長

可能であれば事業を伸ばして頂いて水道の需要が伸びて行くように将来考えて頂ければと思います。それから事業等計画状況でAとかBとかCで評価をされています。これは例えば宮城県さんと重なるところがあると思いますが、その取組について、県の方々と議論されてAとかBとかCを付けられているのですか？

○並木次長兼業務課長

今回、このように自分たちの事業の評価をしたというのが、実は我々も初めての経験でした。今回は内部だけでの評価ということで、宮城県さんにその部分でお伺いをしていないものになります。

○大村会長

わかりました。恐らく一緒にやられているところは少し議論されて評価された方が良いのかなと思いますし、この場で県の方々もおられるので色々な評価に対してご意見を頂ければより良い評価になっていくと思いますので、その辺のところも検討していただきたいと思います。

県の方からこの評価について感じられることがありましたら、企業局水道経営課の佐々木健志委員さんどうでしょうか。

○佐々木健志委員

宮城県企業局は水道については仙南仙塩広域水道の水を塩竈市さんに購入頂いている形になります。今回のレポートで供給単価と給水原価の推移を見ますと、かなり給水原価の方が押した形になっていて大変心苦しいところがあるなと思っています。

とは言え、その前に説明いただいた様々な財務評価の方を御多分に漏れず宮城県も同じような評価をしている訳なのですが、ほぼ同じような状況です。

企業局の場合は何とか料金回収率の方は、100%はキープしているのですが、トレンドは概ね塩竈市さんと同じで施設の改修も含めてこれからかかる需要の減少なり更新投資の方で、考えていく必要があるというのが共通ですので、一緒にこの課題について考えていければと思っています。

○大村会長

是非、色々と議論して頂いて事業に反映して頂くと非常に良いと思います。その他、管路の整備について将来、どのような形で更新していくのかという事と、管路業界、その管路の方の施設の今後のやり方というか施設を更新して新しい経営を考えての案について、管工事協同組合の鈴木委員に教えていただきたいと思います。まず事務局の方から管路についてはどうでしょう。

○熊谷上水道課長

管路の更新計画ですが、資料11ページの管路の経年化率のところで、令和6年度において約43%が一般的に40年と言われている経年劣化率を迎えている状況です。全国平均が約22%ですので、塩竈市の場合はちょうど倍くらいの古さで、近代水道が始まってから110年と言う歴史がありますのでそれだけ施設が古くなっています。一方で市内の配水管と導水管は約350km位ありますが、それを一気に更新することはなかなか難しいところがありまして、計画の中で資料14ページに重要水道管の耐震化として塩竈市の場合は64.5%が更新されていますが、全国平均では42%、宮城県では50%を切る数字となっています。

塩竈市の力の入れ方としては、まずは何か大きな災害があったとしても大きな被害につながらないように重要路線を更新していくという考えのところも全国平均を上回る要因だと思います。財源については極力国の補助金を充当するような形で計画している状況です。

○大村会長

分かりました。評価がBになっていますが、耐震化も進んでいるということで、Aでも良いのではないですか。

○並木次長兼業務課長

情情的にはAと付けたいところですが、100%を超えたらとAとしているので、

少し足りない状況でしたので今回はB評価としています。ただ、年々古い管が増えて
いるので、100にする事はなかなか難しいですが、重要管、重要路線についてはや
はり何かあったときに命綱になるところなのでそこはしっかりとやりながら、今後、
この大きなところが終われば、給水管等の少し細いものに対応をシフトして更新率を
高めていきたいと考えています。

○大村会長

鈴木委員。管路の整備についてもっと早くなどの意見はありますか。

○鈴木委員

近隣の二市三町で工事を行っていますが、塩竈市は補助を他の市町村よりもうまく
使って管の更新を積極的に行っている印象があります。塩竈市は昔からの港町で、県
内でも早くから水道を整備してきたため、老朽化も他と比べて非常に早く来ていると
感じています。

先日、別の町ですが、そこが止まってしまうと他のところにも水は行かないという
状況の漏水工事がありました。塩竈市においても離島を含め、漏水になると水が行か
なくて直すのに時間かかるという場所がありますので、そういうところを重点的に進
めてもらえればと思います。

また、管工事組合の経営側では、概ね40代から50代中盤の方で若返りしていま
すが、作業員の方の高齢化が進んでいます。ここ10年以内位で老朽化の更新工事を
積極的にやってもらえれば、もう少し漏水率も下がって良いと思います。

○大村会長

ありがとうございました。実際に管をきちんと新しく作ったり、直したりをされて
いるということですね、どこが老朽化しているかというような事も積極的に掘り出し
て頂き、全体として管の耐震化を進めてほしいと思います。

お話を聞いていると塩竈市では補助も多く貰われているようで、それは素晴らしい、
頑張っておられる事がよく分かる。今後やっぱり管というのは非常に大事なので
これが健全な状態で長く続くようにしっかりと考えていくようにお願いします。

また、杜の都信用金庫から佐々木啓委員に来て頂いているので経営状況を見て頂い
たご意見等あればお願いします。

○佐々木啓委員

前もって頂いた塩竈市水道事業経営戦略後期計画の資料の25ページの収支見通し
というところを見ていくと、令和12年度には赤字決算になり、その後は大幅に赤字
になっていく見込みだという収支見通しが出されています。

恐らくまだ計画段階で赤字を黒字化していく為という政策を採られるのだらうと
いう見立てはできるのですが、その辺に関しては具体的な策はありますか？

○並木次長兼業務課長

現在、料金の水準をそのまま維持した場合どうなるかという事で、そちらの経営戦略は作らせて頂いています。やはり人口減少等が進んでいく中で、一定程度の管路の整備費用というものを捻出していくとどうしても赤字になってしまいます。今は蓄えがあるので、それを何とか使いながらであればできると思いますが、将来的に令和12年度ではもう完全に赤字化していくという事でみておりますのでそれまでの間、例えば整備費用を抑えて延命することに利点があるのかどうか、整備費用を抑えれば老朽化率が上がってしまうのでその辺のバランスを考えながら今後どうしていくかという事と水道料金の適正化というところをどう捉えていくかという事が重要になると思っています。

まずはその試算をするとどうなるのか複数の試算をしながら、次年度に向けてまた審議会の皆さんに色々ご意見を頂く機会を作りたいと思っておりますのでその時にもお示しできればと考えています。

○大村会長

ありがとうございます。その様な訳で令和12年度位から赤字になってしまうというのはどうしても避けたい。その辺のところを皆さんにアイデアを出して頂いて。やはり管が古くなって色々問題があって、リスクは高まっているのは安心安全な水道水の供給にとって課題となるので、その辺も考えながらいかに赤字があまり大きくならないようにする事が大事だと思います。

佐々木康弘委員には下水道の方で同じようなご意見を頂こうかと思っていましたけど、水道でもあれば何かありましたらお願いします。

○佐々木康弘委員

ありがとうございます。確認という意味で有収率について、目標にちょっと届かないという事でB評価にされています。有収率で5%強、有効率が5%くらい上昇していますが、それだけの上げ幅は、なかなか無いのではないと思うのですが、その辺の発見や対応について詳しく教えていただきたいと思います。

○熊谷上水道課長

有収率を1%上げるのも大変なことではありますが、実は去年の漏水調査の時に、だいぶ鋼管が古くなっている漏水が多発している路線がありました。今回その漏水修理を一か所一か所するのではなくて、ダウンサイジング的な視点で、老朽化した路線自体を全部廃止して接続替えを行って全体的な改善を図ったというところがありました。時間あたり10tから20tぐらいの漏水が年度当初に対応ができましたので、年間通した総量で大きく効果が出たものです。

○佐々木康弘委員

ありがとうございます。有収率向上を目指している市町村が県内でも多くありますが、このように大幅に改善しているというのは経営に大きく貢献されているのだと思います。塩竈市さんは特に行政面積がコンパクトな割に管路延長の割合が大きく長く、経年劣化率も結構高めだという事で、今後更新作業の費用的にも大きくなっていくことが見込まれると思います。そういったところを念頭に置きながら経営の方も考えていく必要があるのかなと思いました。

○大村会長

ありがとうございました。有収率を上げるため、非常に重要なところだと思います。そういうことを感じられて、重点的に管を直すという対応されたのですか。

○熊谷上水道課長

有収率の大切さについてはもう重々承知してしまして、将来の料金改定などを見据えると、やはりそこは上げていかないと理解は頂けないだろうということで、年度当初からスタートダッシュをかけて、漏水調査に力を入れたところであります。

○大村会長

ありがとうございました。最後にウェブで参加されている佐野委員、何かご意見ありましたらお願いします。

○佐野副会長

ありがとうございます。今話題になっていました管路の更新にも係るところですけども、国土交通省も重要視している重要施設の耐震化のところですね。

今回は令和6年度の報告なので対象にはならないかも知れませんが、今後の事を考えますと重要施設の耐震化率的な指標が示されていると市民の皆様の安心感にも繋がりますので、この先ですけれどもご検討頂ければと思って聞いておりました。

○大村会長

どうもありがとうございました。管だけではなくて施設の安心も大事なのでその辺のところも考えてよろしくお願いします。上水道の方の経営戦略を議論したのですが、他に何か追加のご意見はありますか。よろしいでしょうか。議題1の方はこれで議論終了とさせていただきます。それでは2番目の議題の令和6年度下水道事業の取組について事務局から説明をお願いします。

○佐藤下水道課長

(資料「塩竈市下水道事業令和6年度の取組について」に基づき説明。)

○大村会長

ありがとうございました。下水道事業についてもそれぞれの委員の立場からご意見を頂ければと思います。今回は、県の方から話をして頂ければと思いますが、コンセッションが始まっていますので、その辺の観点からのご意見等を頂ければと思います。

○佐々木健志委員

塩竈市の污水について、仙塩流域下水道ということで、県で流域処理しています。令和6年度に大きく臨時改定をさせていただいていますが、この主な要因としては、電気代がかなり高騰したことにより動力費が追いつかない状況となっていて、塩竈市さんをはじめ流域の市町さんと協議を行い、改定させていただいたところです。

県も塩竈市さんと同様ですが、これから経費がかかっていく状況の中で、どうしても料金上昇が避けられない状況になっています。その中で管の更新と併せてダウンサイジング等を図っていかないと厳しい状況なのかなと県も把握しているところです。塩竈市さんもほぼ同ような状況かと思いますので一緒に課題を共有しながら解決を図らせていただきたいと思いますので是非よろしくお願い致します。

○大村会長

どうもありがとうございました。では、県の佐々木委員からもお願いします。

○佐々木康弘委員

経営状況を見ると企業債償還金との関係ですね。水道事業と異なって、そもそも下水道事業は特別会計から始まって、企業会計になったのは最近の話ですので、経営状態が水道と比べると大変苦しいのがどこの市町村さんも同じだと思いますが、今のところは基準外繰出しとか一般会計からいただいて取り崩しされている状況です。そのあたりの解消がどこの市町村でも課題になっているのだと思います。

水道と比べれば経年化率はそんなに高くない状況ですが、そもそもの体質的な改善が必要になってくると思います。有収率でいっても下水道の方が低いという状況ですので、そういったところを考えていく必要があるのかなという事で見させて頂きました。

○大村会長

どうもありがとうございます。水道と違って下水道は一般会計からお金を繰入れていかないと実際に運営できないような状況になっている。その辺のところをうまく変えていければ、素晴らしいと思うのですが、なかなか難しいという気がしています。

下水道の陥没事故がありましたが、塩竈管内で、問題になったような事故などはありませんでしたか？

○佐藤下水道課長

八潮市の陥没事故について、事故直後から県を通して国から各市町村に対象となる類似の管は無いかという調査が一斉にありました。塩竈市でも、年代別、口径別に資材分けしながら、最終的に約1.7kmの管が抽出されています。口径で言いますと2,000mm以上の管路で、汚水管路はなく、全てが雨水管路という状況です。

今後そういった管路について潜行目視という形で管の中に入っただけの点検を行う計画としています。ただ、最近、埼玉県で行田市で、点検中に委託業者の方が硫化水素でお亡くなりになった事故がありましたので、調査にあたっては、そういった対策を十分に確認しながら進めていきたいと考えています。

○大村会長

それは重要ですよ。硫化水素の話は昔から分かっていたのだと思う話なのですが、実際にそれに対応できるような作業、やり方というのがあまり行き届いていなかったのかも知れないですね。その辺の教育をきちんとやっていかなければならないと思いますが、その辺のところはどうですか？

○佐藤下水道課長

本市でも、マンホールを開ける時には、職員が検知器を必ず携行し、確認してから作業に入るようにしています。今回の行田市の事故でも清掃業者さんは、前にもやっていて、この前は大丈夫だったからという部分があったのかと思います。

○大村会長

どうもありがとうございます。十分注意してやって頂ければと思います。佐野委員が急用で4時半に退席されるので、佐野委員、何かご意見あったらお願いします。

○佐野副会長

内容については承知しました。一点だけ。今、下水道計画地域であったところを浄化槽に変えていくというような事例が全国的に増えていると聞いています。将来的に最適な形を作っていく時に少しルールといいますか、設定されている事を変えていくのは少しハードルがあるかも知れませんが、将来に向けてどういう形がよろしいかという事は、ぜひ積極的に考えていっていただきたいなと考えているところでございます。

○大村会長

ありがとうございます。今の下水道施設を持続的に使っていくものに対応していくだけではなくて、例えば浄化槽の活用や新たなものやシステムそのものを変えて、塩竈市に合ったものにしていくことも大事ではないかというご意見だと思います。

鈴木委員、下水管の管路はどうですか。

○鈴木委員

私どもは、下水道については民地の取り出し工事、繋ぐ工事をしています。塩竈市の特性として埋め立て地域があります。年々土地が下がる地域もあり、非常に維持管理上難しい地域もあると思います。市場の辺りも震災後新しくなっていますが、そこも埋立地なので今後、維持管理費用がかかってくるのかなと思って聞いていました。

先ほど佐野先生からもありましたように塩竈市としての問題点を把握しながら、そこにあった維持管理と修繕、水道と同じですけれど、重点的にどこを見ていくかということをやっていったら、我々もそれに尽力していきたいと思いました。

○大村会長

今言われたようにして今後検討していくということは非常に大切だと思います。それでは事業をやっているお二人の東委員それから内海委員。下水道に関して、節水対策はかなりやられているのですか、水量としてはどうでしょうか。

○東委員

各店舗ではそういう節水とかは無いです。私が注目したのは下水の処理の仕方ですけども水産に関わる者として、海の物が何でも取れなくなっている。私は、海苔を中心に扱っていますが、私が海苔の入札に行くようになってから、100億万枚取っていたのが、半分以上になっている。これは温暖化だけではないと思うのです。海に栄養がなくなっているのだと思います。水産の視点で言うと、海に流す下水処理が、例えば栄養があるものに変えて流すことができれば水産にとって非常に良いのではないのかという印象を受けました。

この前、亡くなられた唐桑の畠山さんは、山に木を植える運動をしていて、山に植えた木が腐葉土的なもので河口を流れて、その河口でプランクトンが発生して食物連鎖ができるような形のスタイルをずっと訴えていました。下水を処理する時にそういうような物が流れれば、宮城県のみならず全国的に水揚量が増えると、水産に使う水道の量も増えるのではないかと考えながらこの資料を見ていました。

実際に海苔の話だけで言わせてもらえば愛知のどこかでそういった取組をして海苔の生産量が上がったと聞いた事があります。その辺のところを水産の方とコンタクトを取りながら、栄養がある下水の処理の仕方ができないかなとなれば、塩竈でも海苔や牡蠣をやっていますので塩竈市の税収も上がる、その水産に関わる水の供給も増えるというような形で非常に良いのではないかと考えていました。

○大村会長

どうもありがとうございました。今の件で少し補足説明させていただきますと、まさに今言われたような視点で下水処理を考える動きがあります。昔は、水質の問題だと言われて、窒素・リンを取ろうと大学をはじめ研究機関で水処理技術を磨いてきたのですが、技術が進んでいますので、もしかしたら必要以上に窒素・リンを取り除いてい

る可能性があるのかもしれませんが。

有明海の海苔養殖で最初に問題になって、それ以降に瀬戸内海の養殖でも試行を聞いたことがあります。そういう状況が段々顕著になってきたので、季節、例えば海苔の場合、冬に窒素・リンが必要な部分なので、冬にはちょっと処理の効率を落として流すなどの取組が最近ありますので、その辺も参考にしながら、宮城県さんもその辺を共闘して、今後どうするかという検討して行くのが非常に大事です。まさにそういう時に来ていると思います。内海さん、どうでしょうか。

○内海委員

うちの会社も震災の時に私設の下水道管が大分やられまして、結構な改修費用かかっています。塩竈市や宮城県の管と普通の一企業のものとは強度等が違うと思います。これからかかっていく設備改修や陥没に対する対策など、会社の参考にさせてもらえるようなことがあればと思いながら話を聞いていました。

○大村会長

ありがとうございます。一緒に処理しているというのは普通のことなので、その辺は企業サイドからの下水処理の対策のようなものを将来に向かって今後色々ご意見頂くと非常に良いなと思いますので何かお気づきの点がありましたらご発言頂けたらと思います。では、佐々木啓委員、経営の方からどうでしょうか。

○佐々木啓委員

下水道事業経営戦略の30ページ、31ページのところでお伺いしたいと思います。30ページの財政計画の中の収益的収支ですがグラフの中で下水道使用料は右肩下がりになっているところ当期純利益は一定程度確保している。恐らく何かしらの削減策であったり、復興のための計画があるだろうと思っていますが、概要をお伺いしたいのが一つ。

31ページのところで、借入が減少していく中で建設投資額は変わらず6億円で変わらないということはいわゆる内部留保のものを吐き出していくという認識で良いのかについてお伺いしたいと思います。

○佐藤下水道課長

下水道については、先ほどのとおり一般会計の繰入がないとやっていけないという状況があります。その中でもこの財源確保という部分で人口が減って使用水量が減っていくというのは見えています。その中で下水道については、料金を上げない努力として、令和7年度から包括的民間委託という事で、これまで個々に発注していた点検業務や小さな草刈りなどを一括まとめて発注し、コストダウンを図るという宮城型の小さいバージョンを行っている状況です。

更には車両も減らし、維持管理の部分でコストダウンを図っています。今後の収支

については、建設改良では6億円ほどの事業を行っていくという計画を立てています。その中でストックマネジメント計画としまして、本当に悪いところを補助事業を活用して進めていくという考えで計画を立てています。

また、企業債の償還の方を一時期整理した部分が減ってきているという状況でありますので、補助を活用できればこういった経過で進んでいくと見込んでいます。この補助の活用については今年度宮城県さんを通して補助金拡充の要望をさせて頂いている状況です。それも国から来る補助金交付金なので確約はできない事ではありますが、なるべく補助金を活用しながら行っていくような計画を立てている状況です。

○大村会長

今の補助金ですが県さんと一緒に申請して補助金を頂く事になっているのですか？

○佐々木康弘委員

そうですね、窓口はこちらです。一応要望の取りまとめは国の方に対して県がやっております。直接の交付は直接市町村さんがやっています。

○大村会長

分かりました。ありがとうございます。

○佐々木啓委員

先ほどご回答いただいた内容に近いので質問させていただきますが、同じ資料の33ページに民間包括委託の話が書いてあって、令和10年度からウォーターPPPの導入の検討も進めるという話が書いています。

先ほど宮城県の方にご紹介頂いたところですが、恐らく国の方もいわゆる官民連携、民間の力を使ってという事を進めているということもありましたので塩竈市さんの今の考えを教えて頂けたらと思いました。

○佐藤下水道課長

包括的民間委託を今年度から導入していますが、次の段階として、ウォーターPPPという形での管理更新一体型マネジメント方式というものに移行できないかということを考えています。人口減少や使用料収入の減少、物価高騰、これから進める老朽化対策など、経営状況が厳しくなっていく状況にある中で、これらの課題を解決するためにはこれまで以上の取組が必要でありますので、今年度から導入の可能性に向けた調査をしていきたいと考えています。その効果が出るようであれば移行の準備を進めていくことを考えています。

ただ市がやりたいと思っても事業者の方が本当に受注してくれるのかという、受け手側さんの問題もあります。また、管理更新という部分で、今は管理ですが、更新の部分をごくままで含めるのか、機械設備、電気設備、管路もありますので、どこま

で何を含めるかを検討したいと考えているところです。

○大村会長

ありがとうございます。ウォーターＰＰＰを検討する事は非常に重要な話なので、塩竈市だけで議論してもなかなか難しいところもあるかも知れませんが、県をはじめとして他に色々やられている方のご意見も伺いながら、塩竈市での話が進むと良いと思います。やっぱり僕はウォーターＰＰＰを考えて頂けると良いと思っておりますのでよろしくお願いします。

他によろしいでしょうか。これ見せてもらって凄いと思います。塩竈市の上水道「世界に安全な水を」と。世界に言っている塩竈市です。素晴らしい大きな目標でぜひ塩竈市から素晴らしい上下水道の今後の成果を世界に発信して頂いて世界に貢献して貰いたいと思います。ぜひ頑張ってくださいと思います。よろしくお願いします。

２番目の議題については意見がないようですので、これで２番目の議論を終わらせて頂きます。一応これで今日の議事は議題が終わりましたので事務局の方にお渡しします。

(6) その他

並木次長兼業務課長から、審議会終了後に意見等があった場合に提出していただく様式の説明と次回審議会（令和８年３月頃予定）の日程について説明を行った。

事務局から、東委員からのご案内により８月の連休に仲卸市場で開催することもチャレンジラボに初めて水道教室を出展することについて報告を行った。

(7) 閉会

令和７年度第１回会議を閉会することについて、事務局から報告した。

（閉会 １６：４５）

10. 審議会終了後に委員から寄せられた主なご意見

【水道事業】

- ・資料に実績の記載はあるが、計画年度の具体的な実施計画や目標などの記載がない。また、財政収支計画もあるとよい。

【下水道事業】

- ・計画年度の具体的な計画や目標などの記載がない。また、財政収支計画もあるとよい。
- ・塩竈市における経営状況は、黒字決算が続いていること、計画的な返済計画により企業債が減少していることなどから、漁業集落排水などに一部課題はあるが、概ね健全な経営であると考ええる。